

22:39 それからイエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれ、弟子たちも従った。

22:40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていない。」と言われた。

22:41 そしてご自分は、弟子たちから石を投げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。

22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

22:43 すると、御使いが天からイエスに現われて、イエスを力づけた。

22:44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

22:45 イエスは祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに来て見ると、彼らは悲しみの果てに、眠り込んでしまっていた。

22:46 それで、彼らに言われた。「なぜ、眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈っていない。」

22:47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。

22:48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか。」と言われた。

22:49 イエスの回りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ。剣で打ちましょう

か。」と言った。

22:50 そしてそのうちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、その右の耳を切り落とす。

22:51 するとイエスは、「やめなさい。それまで。」と言われた。そして、耳にさわって彼を直してやられた。

22:52 そして押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。」

22:53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。」

イエス様は孤独を感じられたでしょう。これほどの恐怖と苦しみで打ち勝つ祈りをなさっていたのに、弟子たちは「眠り込んでしまっていた」のです。確かに人間の肉体は弱いもので、信仰に自信があるような者でも、誘惑に陥ることがあります。弱さを克服するには「祈って」いるしかないことを覚えましょう。神の力によって生きる以外ないのです。

イエス様はご自分を捕えようとする者にさえ、「耳にさわって彼を直して」やられました。決心のついた人は心に余裕があるので、優しい愛の人になれるのです。主に従う決心をしましょう。

イエス様のこの落ち着いた着きは、ゲッセマネの園で祈った結果です。祈りは単にお勤めやルーティンワークではありません。生ける神様との生ける交わりです。心を変えて、主の思いで生きるために心を定めるような祈りをしましょう。そのような祈りに導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

